

市長記者会見記録

日時：2021年4月20日（火）14時00分～14時22分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：かわさき宙と緑の科学館開館50周年を迎えます（教育委員会事務局）
市政一般

<内容>

<かわさき宙と緑の科学館開館50周年を迎えます>

【司会】 それでは、ただいまから定例市長記者会見を始めます。

本日は、話題提供として、「かわさき宙と緑の科学館が開館50周年を迎えます」について、福田市長から御説明をいたします。

それでは、福田市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 それでは、令和3年8月に開館50周年を迎えます、かわさき宙と緑の科学館の記念事業について御説明させていただきます。

開館から半世紀という大きな節目に、年間約25万人の方々が利用されている科学館の魅力をより多くの方々に知っていただきたく、年間を通じて様々な取組を行います。

初めに、科学館の概要でございますが、昭和46年8月15日にプラネタリウム館として開館し、昭和57年2月の本館の開館を経て、市内唯一の自然・科学系の登録博物館となっております。平成24年4月のリニューアルオープンでは、展示施設を一新しまして、本市出身のプラネタリウムクリエイター、大平貴之さんが開発された世界に1台しかない最新鋭のプラネタリウム投影機「メガスターⅢフュージョン」を設置するなど、豊かな自然に囲まれた博物館として、自然、天文、科学に関する資料の収集、調査研究などに取り組んでおります。

1の50周年記念事業につきましては、主なものを御紹介させていただきます。

(1)のプラネタリウム関係ですが、精緻な星空に加え、風景に溶け込む自然な星空をリアルに再現するプラネタリウム・フュージョンの新番組「過去と未来への旅」を4月29日から一般公開いたします。

(2)の記念写真展として、開館当時から今日までの科学館の歩みを紹介するほか、(3)ですが、開館50周年記念式典の開催を7月17日土曜日に予定してございまして、同日の午後からのプラネタリウム50周年記念番組「かわさきの星空50年」の

一般公開を開始いたしますので、科学館の歩んできた50年とその時々の天文現象の魅力に触れていただきたいと思います。

また、川崎市域の動植物を紹介する記念企画展「川崎の生きもの」、2枚目に参りまして、記念科学講演会や子供たちを対象にしたフェスティバルのほか、(8)の記念プラネタリウムコンサートでは、東京交響楽団とコラボレーションした記念コンサートをプラネタリウムドームで開催するなど、魅力あふれる記念事業を展開してまいります。

このほか、2の「記念誌等の発売」といたしまして、市民団体と協働で作成したガイドブック『川崎の生きもの』やオリジナルグッズを販売するとともに、3の「広報事業」の取組につきましても、登戸、向ヶ丘遊園駅等の駅構内や商店街でのポスターの掲示をはじめ、多くの関係団体に御協力をいただき、地域と一体となった活動を展開してまいります。

このたびの開館50周年を節目といたしまして、未来につながる魅力ある科学館づくりを推進してまいります。

説明は以上になります。

《市政一般》

【司会】 それでは、ただいま御説明いたしました話題提供の件と市政一般に関する質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いをいたします。

《かわさき宙と緑の科学館開館50周年を迎えます》

【東京（幹事社）】 東京新聞です。よろしくお願いいたします。これからゴールデンウィークを迎えるということで、生田緑地の方面にも遊びに行きたいという方、多く、近場で行きたいなという方いらっしゃるかと思うんですけど、現状、科学館でコロナの対策で通常と変わっている部分とか、あと、どういう部分に気をつけて、4月からの行事に御参加いただきたいかというのを伺えますでしょうか。

【市長】 今、プラネタリウムのほうが更新をしておりますして休館している状況にあるんですが、それ以前もこれからも、200席入るところを半分の100席に絞って、間隔を空けて、それから検温も手指の消毒も皆さんにさせていただいて、感染対策をしっかり行った上で開館してきておりますし、これからもしっかりそれを徹底していきたいと思います。接触する、触れるようなタッチパネルだとかそういったものは今、少し休止をされていて、自由に回れるようにしているということです。

【東京（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【共同（幹事社）】 共同通信です。この科学館の件で、県内では2か所目の設置ということであったと思うんですが、全国的に見ても、当時、結構珍しかったと……。

【市長】 ああ、科学館が、プラネタリウム。

【共同（幹事社）】 プラネタリウムの設置というものの自体は。

【市長】 正確なのは聞いたほうがいいと思いますけど、当時としては物すごく珍しかったと思いますし、今でも自前でプラネタリウムを持っていて、かつ川崎の場合は、今御紹介したプラネタリウム、「メガスターⅢフュージョン」という世界最高のものを持っているというのは極めて、はっきり言って、どこにもないと思っておりますし、歴史的なものからすると、補足ありましたらお願いします。

【教育委員会事務局】 青少年科学館でございます。歴史的なものというところは、こちらのほうで、今、資料がなくてあれなんですけれども、ただ、今、市長がお話されましたように、光学式プラネタリウムとコンピューターグラフィックを1つの機材で投影することができるところが今回の画期的なシステムのプラネタリウムクリエーターの大平貴之氏が開発した「メガスターⅢフュージョン」というところで、それを基に投影をしていくという流れになっております。

以上です。

【共同（幹事社）】 ちなみに、「メガスターⅢフュージョン」、これはどういうところがすごいということ……。

【教育委員会事務局】 こちらにつきましては、先ほど申しましたけれども、光学式の光を使ったプラネタリウムと、そこにコンピューターグラフィックを映像で重ねて、1つの機材で投影することができるという特徴を持っていて、そこがほかのプラネタリウム館とはちょっと異にしているというものになっております。

【市長】 ちょっと補足で言うと、「メガスターⅢ」というのが、投影できる星の数、幾つでしたっけ。

【教育委員会事務局】 1,500万です。

【市長】 1,500万という超精巧な作りになっていて、それがそもそも今、世界でどのぐらいのレベルでしたっけ。というレベル感というか、「メガスター」が出た瞬間から世界で一番星が映せるというふうな、爆発的に、もうレベル感の違うすごさだったんですが、Ⅲまで展開しているということですよ。

【教育委員会事務局】 はい。単純に星の数だけで言うと、もっとたくさん映せる投影機もあるんですが、川崎の科学館の場合は、非常に自然な階調で星を表してしまっていて、例えば、双眼鏡などを使って見ると、肉眼で見えない星を観測することができる、

そういった特徴があります。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。

その他、各社さん、ありましたら。

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、新番組は4月29日からということですが、番組の更新みたいのは、そもそもどれくらいの頻度でやっているものなんでしょうか。

【教育委員会事務局】 青少年科学館です。フュージョンの番組については、更新頻度については特段決めというものがございませんでして、今回は50周年に基づいて記念番組を作らせていただいたということになっていきますので、年度内はこちらの番組を投影し続けるということに一応なっておりますが、その後の展開につきましては、まだ未定の状況でございます。

【神奈川】 内容は毎年更新するものなんですか。

【教育委員会事務局】 内容については、毎年更新するものではございません。こちらのフュージョンの番組については、毎年の更新は行っていないところです。

【市長】 ただ、企画みたいのはあれなんですけど、毎月のプログラムとかという、今月の空みたいなのは更新しているということです。

【教育委員会事務局】 そうですね。毎月のプログラムについては更新をしているんですけれども、こちらのメガスターフュージョンの新番組というものについての更新は、毎月というような形で行っているわけではないんです。ちょっと補足をさせていただくと、科学館にはフュージョン番組というものと一般向けの公開番組というものと子供向けの公開番組という3本のものを作っているんですけれども、一般向けと子供向けのものについてはフュージョンの番組ではないものになっていて、それについては毎月更新を行っている状況でございます。

【神奈川】 分かりました。

《新型コロナウイルスのワクチン接種について》

【東京（幹事社）】 各社さん、いかがでしょうか。なければ……。

【司会】 市政一般も含めて。

【東京（幹事社）】 よろしいでしょうか。じゃ、引き続き、市政一般の質問をさせていただきます。よろしくお願ひします。

今日からワクチン接種の接種券の発送が始まったかと思いますが、75歳以上、15万人の方が対象ということで、24日の予約受付のときに殺到したりとかコールセンターとかネットの状況とか大丈夫なのかなという部分があるんですが、その辺り、今、どのように御準備されているか伺えますでしょうか。

【市長】 おっしゃるように、今日、15万発送して、28日にさらに65歳以上の方に15万という形で大量に発送します。一方で、予約を受け付ける枠というか、そのものというのは、ワクチンの供給量に合わせて設定していますので、まだ限定的なものになります。ゆえに、わっと来られても、なかなか予約ができないよということになると思います。それはもう十分に御理解をいただきたいと思います。ワクチンがないのに、ゆえに、そんな先々の予定というのがそもそも予約できないようにしております。というのは、ワクチンの供給量がないのに予約を確定してしまうこと自体にやはり大きな混乱を招くおそれがあるものですから、そういう設定にしております。ですから、本当に焦らず、状況をよく見て予約していただきたいなと思っています。

【東京（幹事社）】 県からの先日の発表だと、大体4月26日と5月3日の週で川崎市内には38の箱の数が届くと言われてはいますが、これ、ざっと計算すると、4万人余りぐらいの回数ということで、かなりの方が受けられる量なのかなという感覚もあるんですけど、当面、それは全て高齢者の接種に回るというイメージでよろしいのでしょうか。

【市長】 そうですね。ただ、その後の週からの、じゃ、一体何箱、本当に確定して来るのかということが分からないと、接種して3週間後に2回目ということになりますので、2回目のものが確実に来るとことが分かっているならば、しっかり全部がやれると思うんですけども、まだそこまでが確定できないという段階では、一気にそれをやってしまうと、2回目の分がもうないということに、それだけは避けなければならないので、そういった意味では少し調整をしているということになります。

【東京（幹事社）】 ちなみに、当初はどのぐらいの枠でとかというのはお示しされるのでしょうか。

【市長】 いえ、その辺りは微妙なので、少し内部でコントロールしていきながらということにさせていただきたいと思います。

【東京（幹事社）】 分かりました。あともう一つ、前回の会見でも伺った医療従事者の方のワクチンなんですけれども、こちら、昨日から連携型の施設にも本格的に配送が始まったとは伺っていますが、まだ届いていない方も多いと伺っています。この問題については、その後、何か改善とか、県から示されるものがあつたかどうか伺えますか。

【市長】 ようやく昨日から連携型施設に配送がされてきたということなので、これがスムーズにいくかということをしっかり見ていきたいとは思いますが、正直、住民接種が始まる前までに少なくとも1回の接種はないと、皆さん安心されない

というのは当然のことでしょうから、そこに間に合うように何とかやらなければならないと思いますし、市で協力できることがあればしっかり協力していきたいと思います。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

《小中学校のオンライン授業について》

【共同（幹事社）】 共同通信です。昨日、対策本部会議のときにちょっと出たと思うんですけど、小中学校というのは、基本的に授業とかは通常どおりということだと思うんですが、大阪市とかだと、緊急事態宣言になったら全部オンラインにするみたいな話も出ていたので、その辺は市長、基本的にはお変わりないですか。例えば、緊急事態宣言になったとしても。

【市長】 基本的に変わりはないです。それこそ、よっぽど変異があつて、爆発的に子供たちだけに感染するとかという、今そういうことに全くなっていないので、もしそんなことが、今とは全く違うことが起きれば、それは検討しなくちゃいけないと思いますが、それ以外はしっかり、今も学校で感染対策をやっておりますので、そういった意味では変更のつもりはありません。しっかり子供たちの、授業がない、あるいはイベントだとかということも含めてでありますけれども、そういったことがしっかり保障されてないと、感染以外の影響というものは多大だと思っていまして、そういった意味では、よっぽどのことがない限り、今の方針を変更するという考えはありません。

【共同（幹事社）】 むしろ、原則、全児童とか生徒にオンラインでというときに、端末とかネット環境みたいなというのは、川崎市の場合、可能は可能なんでしょうか。

【市長】 基本的には1人1台端末の状況と、それから、いわゆる今まで調査をやってきて、これぐらいの方が御自宅にネット環境がないといった方のところにも、もし持ち帰りのときにはということでルーターも貸出し用のルーターを準備しておりますし、万が一のときにはそれが活用できるようになっています。あとは、ソフトのところとか、どういうふうに授業を展開するのかというのは、まだ課題としてはあると思います。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。

各社さん、ありましたらお願いします。

《「まん延防止等重点措置」期間中の取組等について》

【tvk】 テレビ神奈川です。今日からまん延防止が始まったところだと思うんですけど、今のところの気付きというものはありますでしょうか。

【市長】 今日の夜からなので、一般的な飲食店だとかというのがどう影響するのか、あるいは人の流れにどう影響するのかなというのは注視したいな、今日から見ていきたいとは思いますが。少し意識して人の流れを、もう人の流れと感染の拡大は連動していることは間違いないので、とにかく少し減ればいいなど。そのために、皆さん、御協力をいただいているわけですから、と思います。しっかり見ていきたいと思えます。

【t v k】 分かりました。ありがとうございます。

【読売】 よろしいですか。読売新聞です。1つは、今、市長さんがお話しになっていた学校の話で、感染以外の影響が大きいとおっしゃられたのを、もうちょっと分かりやすく伺いたいというのが1点でございます。

それから、もう一つは、ゴールデンウィークが近づきましたので、感染の状況、まだ不透明でございますが、何かそれに向けて発信するお考えがあるかどうかというあたり、それをもう1点、そこを教えてください。

【市長】 まず1点目の子供たちに影響を与えるということですが、授業そのものですね。これ、みんなで学校に行き行って集団で学び合うことは大切だと。それから、部活動もそうですし、学校の授業以外のことについてというのも、あるいはイベントみたいなこともそうですよね。例えば、修学旅行のためとか、あるいは自然教室のために、こういう勉強をみんなで一緒にやってという、それを一つの目標みたいに、あるいは部活動もそうですけれども、そういったものが子供たちの目標だとかにつながっていて、学ぶモチベーションになっている。友達と会う、いろんな悩みを話すというのも、オンラインではないところの大切さというのは、私たち、昨年の休業期間中でも、ある意味、十分に思い知った部分だと思います。そういった子供たちの、単純に授業を受けて課題を習得するというだけではないものに対する影響というのは私はすごく大きいものだと思っていて、小児の医療の専門家ですとか精神科の人たちもその影響についてはいろいろ触れられておりますけれども、そういったところにしっかりと配慮しないといけないのではないかなと思っております。

それから、感染拡大防止に向けての何かメッセージをとということで、質問よろしかったでしょうか。

【読売】 特にゴールデンウィークに関してということですか。

【市長】 ゴールデンウィーク、皆様、通常であれば遠出をしたりとかということだとか、どっかで集ってとかということが多いかと思いますけれども、ぜひ今年のゴールデンウィークはなるべく家族単位で、それから人混みを避けてという、これまでのことを、特にゴールデンウィーク中には気を付けていただきたいと。特に都道府県を

またぐ、必ず行かないでということではありませんけれども、なるべく都道府県をまたぐ行動については自粛をしていただくということが重要なと思っていますので、何とか御協力をいただければと思っています。

【司会】 いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312